

式 辞

本日ここに、東京都立雪谷高等学校 創立百十周年記念式典を挙行するにあたり、東京都議会議員・森あい様、同じく玉川ひでとし様を始め、歴代の校長先生、長年にわたり本校をご支援いただいている地域代表の皆様や、近隣の小中高の校長先生など多くのご来賓の方々のご臨席と、東京都教育委員会を代表して東京都学校経営支援センター所長・江藤巧様、本校同窓会会長・柳沼壽様、同 PTA 会長・下江亜以子様など、多数のご列席を賜り、このように挙行できますことを心より感謝いたします。

さて、本校は、大正 2 年東京府荏原郡調布村立調布女子実業補習学校として設置され、大震災や戦争を経て、昭和 23 年から全日制定時制併置の新制高等学校として改組され、昭和 25 年より現在の東京都立雪谷高等学校となりました。開校当初は、調布尋常小学校に併設されており、当時の久が原台は畑ばかりで、最寄り駅のある池上線の開通も開校から 10 年後であったと聞いております。

昭和 24 年に男女共学を導入しましたが、その時の教育方針が

『本校の教育は学問を愛し教養を尊び、健康清純な身体を培って個性を伸張確立すると共に広く深い理解と健全な批判に立って自己の社会的使命を全うし得る有意の資質を養い以って民主的文化国家の建設発展に努め人類の福祉に貢献する国民を育てるにある。』でありました。現在でもその精神は受け継がれ、『文武両立』を合言葉に、学力向上と部活動を推進し、豊かな人間性と社会に貢献できる人材の育成を目指しており、それこそが現在の雪谷高校の大きな魅力となっております。

近年では、東京都教育委員会から平成 26 年度から 3 期にわたり硬式野球部と陸上部がスポーツ特別強化校、令和 4 年にはチアリーディング部がスポーツサイエンスプロモーションクラブに、また学校全体として平成 30 年にパワ

ーアップハイスクールに指定されるなど体力や競技力の向上に努めるとともに、平成29年にはアクティブラーニング推進校、令和3年度には情報教育研究校、Society5.0に向けた学習法研究校、そして今年度は進学指導研究校というように、ICTを活用した主体的・対話的な学びを通して、学力・思考力の伸張を図り、進学実績を伸ばすとともに自己実現を果たす指導を実践しております。そして、大田区を始めとする地域の皆様のお蔭をもちまして、創立から現在に至るまで、全定あわせて3万1千人を超える有為な人材を社会に送り出すことができました。

私は雪谷高校に赴任して3年目となりますが、他の学校に誇れるものが二つあると考えています。一つは生徒の皆さん一人一人の存在です。毎朝の正門や廊下における笑顔で交わす挨拶、授業に意欲的に楽しそうに取り組んでいる様子、放課後の部活動や委員会活動など、何事にも失敗しながらも懸命に取り組もうとしている姿勢は私に元気を与えてくれています。皆さん自身もそれを感じているのではないのでしょうか。文化祭の時に、PTAが主催した雪谷高校の良いところを書いてもらったとき、誰もが、みんなが明るく元気、優しい、挨拶ができる、部活や行事が盛ん、皆本気で取り組む、中庭がきれい(これは少し違いますね)、と書いてくれました。中には先生方が優しくて親身というのも多かった気がします。

もう一つは、この雪谷高校を応援してくださる同窓会やPTA、地域の皆様の存在です。在校生のために、様々な支援や企画を提案して、一緒になって学校を盛り上げようとして下さる環境はそうあるものではありません。この雪谷愛にあふれる環境の中で、本校生徒達は母校愛を育み、自らを鼓舞するとともに他者を応援する心を養っております。今では雪谷高校の名物になっている野球部、チアリーダー部、吹奏楽部が中心となって演じる母校応援が正にその象徴であります。ですから、在校生の皆さんはこの多くの方々に愛され、期待されていることに感謝すると共に、

今度はそれを次の世代に受け継いでいてほしいと思います。

入学式にも申し上げましたが、現代は地球温暖化や多発する災害、地域紛争など誰もが想像できない時代となっています。この先行きが不透明な時代だからこそ、夢や目標を持って自ら考え行動することが必要です。その夢や目標を実現させるためには、多少困難なことがあってもあきらめてほしくない。苦しい時ほど『あと一歩前へ』の勇気を持っていただきたい。皆さんにはその力が十分あると思っています。あなたのその一歩が誰かを勇気づけることに繋がって、それがやがて雪高を中心とした大きな力となることを願っています。

繰り返します。

苦しいときほど『あと一歩前へ』

迷っているときほど『あと一歩前へ』

偶然にも10年前の今日11月16日は、百周年記念式典を挙行し、皆でお祝いした日であります。次の10年後にまた、今と変わらず輝き続けている雪谷高校を皆さんと共に祝いしましょう。以上で式辞と致します。

令和5年11月16日

東京都立雪谷高等学校長

豊岡 耕一郎